

「はまかぜ」(金沢版)

平成 28 年 11 月 11 日号

連載 第83回

横浜市議員 おばた正雄氏 横浜を語る



感謝の心で金沢づくり
横浜から日本を創る!
市会議員
おばた正雄

〈プロフィール〉

昭和54年より横浜市会議員。10期。

〈ご相談・ご連絡先〉

事務所:金沢区谷津町332

TEL: 045-783-7869

FAX: 045-786-5315

obatamasao17@gmail.com

おばた正雄HP

決算特別委員会報告 海の環境と海洋人材の育成を!

横浜市大に海洋学部設置を提言!

9月〜10月 横浜市は私の提言を痛感し、16年前に行われた市会第3回定例会の決算特別委員会でも「子ども・子育て支援策」の拡充等を提言。今回は、私が取り組んできた「海洋都市政策」の課題について報告いたします。

横浜市の中期計画に海洋政策を採り入れ、「海洋都市横浜委員会」の取組をスタートさせました。私は、気候変動による温暖化を防ぐためには海の環境保全が必要であり、首都圏に残された金沢の「海の公園」の環境を整備する必要があります。

8景+東京湾アマモ再生会議や「きれいな海辺づくり研究会」の活動に参加してきました。多くのボランティアの方々と一緒にアモモの再生活動に取り組みましたので、金沢の海はアモモがみごとに再生しています。

この活動には近隣の小学生が参加し、最近では企業の方々の協賛や参加をいただき活性化してきましたが、金沢区の方々の参加を増やすことが課題です。

Q: 横浜市海洋都市を目指した取組は?

A: 海洋教育について、今年度から市内の小・中学校に對して、海を知り機会を増やしていくため、協議会に参加する企業・団体による出前授業や研究施設の見学など、プログラムを提供する取組を開始しました。

また、5月から7月にかけて横浜国大と共催で海の生物や自然環境などをテーマとした市民講座を5回開催したほか、子ども向けの海洋に関する職業体験に協力するなど多くの市民が学べる場を提供しています。

海洋分野での人材不足は深刻な問題

日本は、海洋国家であり、貿易立国ですが、日本人の船員が非常に少なく、現在、日本の貿易に携わっている外航海運の日本人船員はわずか2754名。外国人船員は5万5千人で、日本船員は4・7%で日本の海運は大変深刻な状態です。今後日本近海で発見される海底資源の開発のための人材が必要になり、海に必要となる仕事に従事する人材の確保が大きな課題です。

そこで、私は、横浜市立大学に海洋に関する学部や講座を設置し、学生・社会人・企業を巻き込んで海洋都市として、横浜から海洋に関わる人材を輩出していく取り組みを積極的に進めたいと今回の質問でも提言しました。